

津和野町のおもな遺跡

年代(約)	時代	おもなできごと (青色は津和野町のできごと)	津和野町内の遺跡		野広遺跡
12000年前 10000年前 6000年前 5000年前 4000年前 3000年前	草創期 早期 前期 中期 後期 晩期	土器が作られ始める 押型文土器が使われる(高田遺跡) 気候が温暖化し、海面が上昇する 九州系の土器が広まる(高田遺跡) 長期にわたり、集落が営まれる (高田遺跡・大蔭遺跡) 突帯文土器(右の写真)が使われる (野広遺跡・萬世益遺跡・大蔭遺跡)	 おおかげ 大蔭遺跡	 野広遺跡	野広遺跡
2500年前 2200年前 1950年前	前期 中期 後期	水田で稲作がはじまる 弥生文化が伝わる(大蔭遺跡) 鉄器、青銅器が伝来する 奴国王が後漢に使いを送る 大きな集落が営まれる (高田遺跡・大蔭遺跡) 女王卑弥呼が魏に使いを送る	 調査区全景	 大蔭遺跡	野広遺跡
1750年前 1600年前 1500年前	前期 中期 後期	古墳が出現する 群集墳がつくられる 鍛冶原古墳群や社寺脇古墳がつくられる	 土器溜まり	 喜時雨遺跡	野広遺跡
1300年前 1200年前	奈良時代 平安時代	奈良に都がおかれる 金属の精錬が行われる(大蔭遺跡) 京都に都がおかれる 鹿足郡が設置される 拠点的な集落が営まれる (高田遺跡・大蔭遺跡) 中国製陶磁器が流通する(高田遺跡)	 調査区全景	 大蔭遺跡	野広遺跡
800年前 700年前	鎌倉時代 室町時代 安土桃山時代	鎌倉幕府が成立する 吉見氏が能登国(石川県)から入る 室町幕府が成立する 永明寺が建立される 吉見氏家臣団の居館が営まれる (土居丸館跡・高田遺跡・喜時雨遺跡) 石見銀山が開発される 鷲舞が山口から伝わる	 野広遺跡	 喜時雨遺跡	野広遺跡
400年前	江戸時代	江戸幕府が成立する 坂崎氏が津和野城主となる 亀井氏が因幡国(鳥取県)から津和野城に入る 藩校養老館が開設される 森鷗外が生まれる	 津和野城跡	 山陰道(野坂峠)	野広遺跡

いわみじ ことづて 石見路の言伝

〈一般国道9号改築工事〉野広遺跡発掘調査だより ~特別号~
2011年5月



野広遺跡は、鹿足郡津和野町直地地区にあります。一般国道9号改築工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、平成21年5月から始まり、平成22年10月をもって終了の運びとなりました。お世話になりました機関、地元住民の皆様、心よりお礼申し上げます。

発掘調査の結果、縄文時代から江戸時代の遺物や遺構が見つかり、石見地方の歴史を知るうえで貴重な資料を提供することとなりました。今号ではその調査成果を紹介いたします。



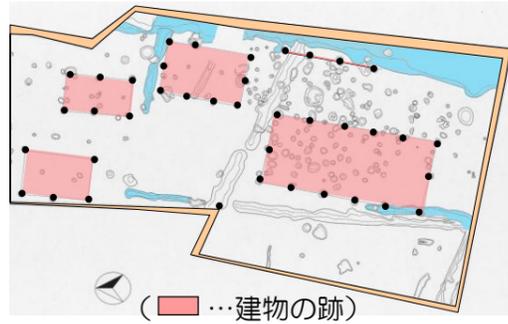
のびるいせきの野広遺跡

～吉見氏家臣の屋敷跡か?!～

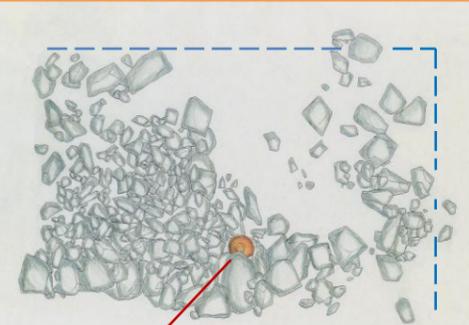
野広遺跡は津和野川中流部の河岸段丘上にあります。遺跡の周辺には「ケズ」という荘園に由来する地名があり、荘園の支配に関わる施設などが存在すると考えられてきました。また「竹土居」「屋敷」などの有力者の居住地を示すとみられる地名も遺跡周辺に残されています。

発掘調査を行なうと15世紀～16世紀の建物跡が23棟も見つかりました。屋敷地を区画した柵列や溝も確認されており、その内側では4m×10mの大型の建物跡もみられました。これらの屋敷地に伴う墓地とみられる集石遺構も検出されています。

12世紀～16世紀ころの輸入陶磁器も数多く出土しており、一般的な集落では発見されることの少ない青磁盤や天目茶碗、茶入などの高級品もみることができます。これらのことから、野広遺跡は現在の鹿足郡全域を治めていた吉見氏の配下の有力者が居住していた屋敷跡とみられ、津和野の中世史を考えるうえで多くの重要な手がかりを提供したといえます。



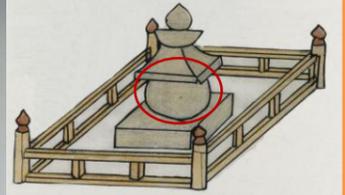
墓地



石造物が存在していたといわれる地点付近から、2基の集石遺構が発見されました。河原石が方形に組まれた集石遺構の中からは五輪塔の一部とみられる石造物が見つかりました。もう一つの集石遺構の下からは棺を納めたと思われる円形の土坑が検出されました。これらの集石遺構は墓地であったと考えられ、当時の葬送や信仰のあり方を示す貴重な発見となりました。



五輪塔 (水輪部)



『一遍上人絵伝』より作画

有力者の暮らし

室町時代の『福富草紙絵巻』には富の象徴として青磁盤や茶道具が棚の上に飾られている様子が描かれています。野広遺跡では中国製の青磁盤や天目茶碗、茶入なども見つかり、座敷飾りや茶道具として珍重された舶来品の高級品を入手することのできる有力者が居住していたと推測されます。



青磁盤

天目茶碗

茶入



丸鞆

役人のベルトに取り付けられた飾り。官位によってその材質や大きさが決められていました。出土した丸鞆は石で作られていることから、下級役人が身につけていたものと考えられます。中世の遺跡から発見されることは珍しく、伝世品として大切にされていたのかもしれない。



丸鞆

ベルトに留めるため、裏面に穴があけられています。



陶磁器の流通



白磁



青磁 (龍泉窯)



青花 (景德鎮窯・漳州窯)



天目茶碗 (瀬戸焼)



こね鉢 (東播系須恵器)



すり鉢 (備前焼)

中世は都市が発達し、生産と流通が大きな展開を遂げた時代といわれています。そのことを物語るように、野広遺跡では国内(岡山県・兵庫県・愛知県)で生産された陶器のほか、中国や朝鮮半島で生産された陶磁器も多数見つかりました。おもに甕や壺、すり鉢といった貯蔵具や調理具には国産陶器が流通し、碗や皿などの飲食器には「釉」のかかった中国産の磁器が広く普及していました。こうした陶磁器類の広がりの中世の人びとの暮らしが国内はもとより、東アジア世界にもおよぶ幅広い物資の流通によって支えられていたことをうかがわせます。